

明治8年(1875年)開校 令和6年(2024年)150年目

日奈久っ子

守るために
日奈久

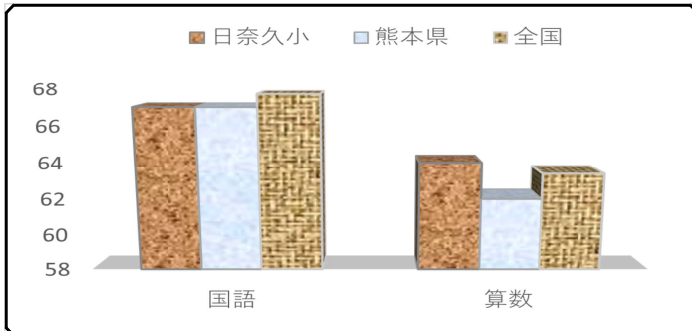


八代市立日奈久小学校
学校便り 第8号
令和6年9月3日発行
文責 村山

笑顔いっぱい やる気いっぱい 元気いっぱい

全国学力・学習状況調査

4月18日に行われました全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。



平均正答率	日奈久小	熊本県	全国
国語	67%	67%	67.7%
算数	64%	62%	63.4%

国語は、全国・県とほぼ同じ、算数は全国・県を上回っています。これは、6年生が受けたテストですが、これまでの本校での授業について、私たち職員が振り返りで見えていくものと考えています。今後の授業づくりに生かしていきたいと考えています。

また、本校は少人数学校のため、平均点もですが、一人一人子供の「よくできているところ」「もう少し学習したほうがよいところ」等を見たいと思います。教師も子供も「よさや課題」を意識して、今後の学習の進め方に生かしたいと考えます。

子供への質問に対し、次のような回答でした。

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決をしていますか。

	日奈久小	熊本県	全国
肯定率	100%	91.4%	91.7%

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。

	日奈久小	熊本県	全国
肯定率	75%	79.1%	81.9%

学級の友達のことや考えを尊重して、協力して学習しているところが、本校の良さとして捉えます。

これに、「主体性」を伸ばすことが課題で、取組をすることで更に伸びていくと考えています。そこで、次の本の一部を紹介합니다。

学校の大切さを考える

PHP新書『勉強しろ』と言わずに子供を勉強させる言葉(小林公夫著)の一節です。

私が小学校の低学年の頃の話です。「先生、なぜ僕らは学校に通わねばならないのでしょうか」と担任の先生に質問した子がいました。私にはこの質問者の視点は思いもよらないものでした。はたして、先生はなんと答えるのだろう……。私は先生の言葉を待ちました。

先生はひと呼吸おいた後、「学校はさまざまな人が集まる場所です。男の子も女の子も、個性は色々です。たくさん的人数で、一つの事柄を考え、ともに学べば教科書に書かれていない発見が必ずあります。皆で一つの事柄に意見を言い合えば、それに耳を傾けることで自分には思いもよらない他人の感じ方、考え方にふれることができます。それによって一人ひとりが学びの世界を広げていくことができるのです。だから、学校で学ぶことは意味深いのです」と述べられました。

先生はこうも言われました。「教科書を習うだけなら家で一人で勉強すれば良いのです。学校に通う必要はありません」私は妙に納得させられてしまいました。「学校が嫌いだ」、「学校に行くのが嫌だ」、「学校なんて、何の意味があるのだろう」とお子さんが拒否反応を示したら、お子さんと一緒に学校の意義について考えてみると良いと思います。最も重要な学びの入り口でつまずいてしまったりは、お子さんは長い学びの道程を歩き続けることはできません。

「当たり前のことよ」、「今にわかるよ」という当事者不在の言葉ではなく、お子さんの疑問に正面から向き合ってください。

日奈久小は、自ら学び、皆で学び合いながら、一人一人が力をつけていく学校を目指しています。